

「7月まき青首ダイコンの標高別有望品種選定」

農業研究センター 高原農業研究所

研究のねらい

山間高冷地における青首ダイコンの7月播種の作型については、真夏の高温、強風多雨など、ダイコンの生育を阻害する要因が多い。

そこで、標高別に内部障害が少なく、生育の安定した優良品種の選定を行った。

研究の成果

内部障害の発生率及び発現程度が低く、収量の多い品種として、標高600m以上で「Y R - 61」と「試交604」標高800m以上で「Y R くらま」と「献夏青首」を選定した。

播種から収穫までの日数は、品種による早晚性があり、標高600m以上での「Y R - 61」と「試公604」では60日、標高800m以上の「Y R くらま」と「献夏青首」では55日が適期となる。

連作障害として発生する軟腐病の対策としては、同一圃場での長期間にわたる栽培を避ける。栽培方法は「Y R くらま」に準ずる。

表 各標高における上物収量と品質評価

標高	品種名	上物収量(kg/a)		品質		外部病障害	内部障害
		S 63	H 1	青首	尻詰		
						軟腐	横腐
600 m	Y Rくらま	47	125	2.7	2.7	- C C A A	B B A
	Y R - 61	71	169	2.7	2.0	A B B B -	A A -
	試 交 604	74	134	3.0	2.5	- B B B -	B A -
650 m	Y Rくらま	52	108	3.0	2.7	A C B A -	C A -
	Y R - 61	102	232	3.2	2.2	- B B B -	- - -
	試 交 604	117	190	3.5	3.5	A B B C -	C A -
800 m	Y Rくらま	82	270	2.5	3.2	A B B A A	A A -
	献夏青首	147	255	2.5	2.5	A C B A A	A - -

* 両年度とも播種後60日で収穫。(S63:7/2 9/1、H1:7/4 9/4)

** 「Y Rくらま」: 対照品種

*** 品質調査: 濃 - 詰まる(5) 淡 - 尖る(1)

**** 外部病障害、内部障害: 甚(E) 微(A)、無(-)



標高600~650mの有望品種Y R - 61



標高600~650mの有望品種試交604



標高800mの有望品種献夏青首